

今日から大人の仲間入り

～平成19年登別市成人祭～

1月7日(日)、登別マリパークニクスで『平成19年登別市成人祭』(同実行委員会主催)が開かれ、晴れ着やスーツなどに身を包んだ新成人が大人の仲間入りをしました。

今年の新成人は、昭和61年4月2日から昭和62年4月1日までに生まれた男性350人と女性260人の計610人で、昨年より87人減。このうち、男性242人と女性206人の計448人が成人祭に参加しました。

式典は、市内在住の三味線奏者・白田路明さんによる『津軽じょんがら節』の演奏で幕を明け、遠田耕治成人祭実行委員会委員長のあいさつの後、上野市長が「しっかりとした夢と希望を持って、これからの人生のスタートを切ってください」と新成人に激励のことばを送りました。

続いて、新成人を代表して豊嶋研吾さんが「豊かな個性と人間性を育て、希望に満ちた未来の開拓に努めます」、千田明子さんが「自然に恵まれたふるさと登別を愛し、よりよき市民となるよう努めます」と二十歳の誓いを力強く述べました。

式典後、新成人の皆さんは、久しぶりに再会した友人と談笑したり、記念写真を撮り合ったりするなどして、和やかに旧交を温めていました。



▲新成人を代表して『二十歳の誓い』を述べる千田明子さん(中央)と豊嶋研吾さん(左)

楽しく製作。冬休みの自由研究

～冬休み工作教室～



1月11日(木)に鷺別公民館、12日(金)に市立図書館で『冬休み工作教室』(市主催)が開かれました。

この催しは、子どもたちに図書館を身近に感じてもらうと開催したもので、幼児や小学生、その保護者など2日間で31人が参加しました。

今回は『ダンボールを使ったギター作り』が行われ、参加者は、ダンボールをギターの形に切り取って、色を塗ったり、好きな絵を描いたりするなどした後、最後に輪ゴムで弦をはって、ギターを完成させていました。

参加した子どもたちは、「楽しかった」「冬休みの自由研究ができました」などと満足顔で話していました。

鉾山町で冬の自然に親しむ

～冬休みスペシャルウイーク～

1月12日(金)から14日(日)までの3日間、ふおれすと鉾山で『冬休みスペシャルウイーク』(市、NPO法人モンガくらぶ共催)が開かれました。

この催しは、市民にさまざまな学びや遊びを通して、鉾山町の冬の自然を体験してもらおうと開催したもので、3日間で約300人が参加しました。

会場では、歩くスキーや葉拓づくり、木の楽器づくり、絵合わせカルタづくり、しりすべり選手権などの多彩なプログラムが用意され、冬休み最後の週末を楽しもうと集まった親子連れなどでにぎわいました。

しりすべり選手権には、小学生など約30人が参加。ふおれすと鉾山グラウンドの築山から滑り降りる速さを競い合い、子どもたちから大きな歓声が上がっていました。



▲約30人が参加した『しりすべり選手権』